

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045 (661) 0166

庚申の年頭に想うこと

会長 志村 慎吾

昭和五十五年は私共横浜市仏教連合会では、会則を改め自らその体制を整えて再出発いたしました。幸いにも、昨秋は市内五百ヶ寺の僧侶が相寄って、頭を聚め、横浜市釈尊奉讃会をたどえ未熟児とは申せ誕生せしめたことは内外の社会情勢のなかで時機を得たものと存じご同慶に堪えませぬ。想えば二十一世紀特に、その後半には文明は人類を滅亡させてしまふのではないかと各方面から警告されております時、僧侶が一同となつて、大菩提心を結集し、人類の危機から脱皮すべく身近なところから仏教精神興隆の推進母体

として只今は僅か五百名足らずの微々たる芽ばえかも存じませんが天下に卒先して呱呱の生ぶ声をあげましたことは釈尊の教えをもつて生きんとする仏教徒の一人として誠に意義ある感奉だと信じます。茲に改めて、創立準備に当つた諸聖に深恩の謝意を表しますと共に創立総会によつて選出されご就任を願つた新役員各位には、更に一段のご奮闘をお願い申し上げ創立綱領に則して、僧侶一同となり相携へて、即今、この生活をささえて来て下さつた、目には見えないが大きな力に感謝して、よい人生をきづき、現下の世相の昏迷に灯火を点ずるよう勇猛邁進されんことを期待してやまぬものであります。禪語に、

「禪河一滴なし、これを禪河の深さとせず」とあります。一滴の水もないところに禪河の深さがあると云う意味だと存じております。一滴の水もないのに!!「馬鹿げた会をつくるものよ」と批判の声を僧侶の方々からきびしく聞えて参りましたが、却つてそこには一滴の水も肉眼には見えなにもか知れないが心のつながりとなり、釈尊の教えに生きんとする。目には見えずとも深さがあると信じます。心とは、仏心(ほとけのおんいのち)です。仏性とも申しま



十年
 塔不塔
 志却
 寺時
 道
 市五春
 根崖

よう。奉讃(ほうさん)は、ほとけのおんいのちに覚めた方々、人々の心のつながりの輪です。目には見えないところに、実は、自由自在のはたらきが無限にできるのではないでしようか。この心のつながりの輪が本年は一層深く、強く、大きく、流れ出し動きはじめように、市仏連の皆さん方、どうぞ超宗派的なご理解をもつて是非、後援し、相扶け合つて行かれますよう期待して止みません。

死に哺乳びんに吸いつく孤児の姿を見ながら、あるいはマラリアの高熱にふるえ、死を待つばかりの少女の姿を見ながら、難民の救済についてなぜ、日本の仏教界はかくも無力なのかと思つた...と云う。更に、一枚のむしるがへだてる生と死のはざまに立ち、筆者はしばしば「政治主義への逸脱を警戒する」という名分のもとに、実は情眼をむさぼっている宗教が今の日本にはあまりにも多いのではないでしようか」とも云い加えています。

我れ参ずること三十年

今日、まさに恥を識る。これは今から千数百年前、中国は宋の時代の禅僧の言葉です、自分は三十年もの永い間禅の修行をやつてきたが、きようはじめて恥を識つた、というんです。千数百年を経た今日、私共も深く襟を正してお互の日常底を見直し反省して「よきかな識差の両字」として、固く銘じ、庚申の歳を迎へたいと念ずるものであります。年頭に当り一言所信を申し述べてご挨拶いたします。

(金沢区金龍禅院住職)

第五回涅槃会要綱

- 一、日時 昭和五十五年二月十六日(土) 午後一時受付、二時記念講演
- 二、場所 港北区日吉本町二一六(東横線日吉下車) 天台宗 金蔵寺 TEL 044(六二)二〇三七
- 三、記念講演 動乱のカンボジアから生還した内藤泰子女史
- 四、会費 記念品代として千円(参加者全員)

◎ 随喜会員は黒の略衣着用のこと。

小澤老師を偲ぶ

福永隆 昭

市仏連前会長小沢省元老師遷化されてより早くも半歳を過ぎ、まことに寂寞の感一入である。

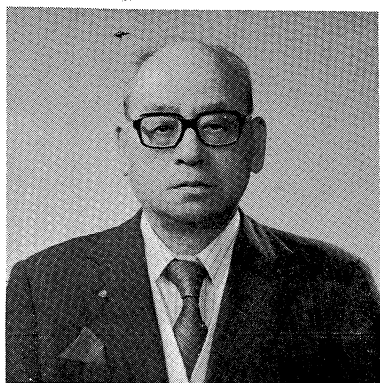
去る七月四日、老師永年の宿願であった自坊再建新本堂に於て本葬儀が執行せられ、湊泰堂建長寺派管長は血涙をしばって靈前に香語を献ぜられ、木の香も新しい新本堂内に列席した各界の代表有志らは、老師多年の功績を称えるところに、落慶式をまたずして逝った老師の胸中を思い、法嗣昌弘師に受け継がれる東光禪寺隆盛のためにお加護を祈ったのであった。思えば昨年今頃迄は本会会合にも欠かさず出席され、改組再出發後の市仏連発展のため、積極的な協力をお願いしていた元氣なお姿がつい昨日のように脳裡に鮮かである。

三十数年前、中学生であった私が、私の師匠の供をして久保山円覚寺前を通りかかると、同寺から黒衣の禪僧が歩み出て挨拶をかわし豪快に一笑した。その人は肩巾広く、頭頂盛りあがり、眼光鋭く白足袋に黒靴を履き何とも迫力があつた。後日小沢省元師と知つたのだが、厳しい建仁僧堂の修行を卒えて横浜に來られて間もない頃であつたように思われる。

大正大学を出た老師は力量秀逸を認められ、建長寺派の本山由緒寺院、白山の東光禪寺に晋重のうち、中国大陸に転戦数年、無事復

員されて地元金沢区仏教会長となり、市仏連の役員に推され、以後の大活躍が展開された。

市仏連では戦後の焼跡に釈尊讚仰の一大巨灯を点すため、早速県仏と共催で花まつりを復活した復員兵と浮浪児と米兵の混るハマの大通りを牛に引かせた花御堂、稚児行列が進み、先導グループには何時も胸を張って歩く老師の姿があつた。当時の花まつりには市仏連歴代会長、福永、星野、白幡佐藤、吉本、横山、小沢の各師が全部顔を揃え、柴田、津川、能登安藤、大沢、成田、角田等々各理



小沢省元師

金沢区金利谷町一四四二

臨濟宗建長寺派、白山、東光禪寺

第二十世

師は昭和五十四年六月十九日脳溢血により遷化、享年六十九才

明治四十三年五月 岐阜 茂郡

事も意気投合して戦後再出發仏教会のデモストレーションと大奮闘し、我々若手仏青も大いに血を沸かせたものであつた。横浜公園野外音楽堂を出発点とする戦後横浜の花まつり大会は、多くの先輩各師の苦心努力により以来年々盛大となり、各区仏主催花まつりに発展していった。

熱血実行の老師はまた、率先街頭伝道に飛び出し、大学時代弁論部をひきい大会に度々優勝した雄弁をもつて諄々と路傍に道義の復興を説き、祖国の再建を訴えた。更に巡回視聴覚伝道が計画されると、中堅常務理事として直ちに実際の先頭に立ち、市内若手僧侶、仏教学生を糾合して伝道隊を作り幻灯機、十六ミリ映画、拡音機な

東白川村に生まれ、幼少にして宗教に於て得度、京都建仁寺の修行をへて昭和十六年東光禪寺住職となる。戦中は北支にて激戦を続け、戦後はいち早く仏教界の活動に専念、大いに活躍した。

建長寺派宗会議員を経て建長寺責任役員となる。

横浜市仏教連合会前会長、神奈川県仏教連合会前会長、宗教連盟理事長、国際仏教興隆

協会事務総長、全日本私立幼稚園連合会副理事等の重職をつとめる

一方、昭和五十四年春、本堂を新築、落慶式を目前に遷化された。

大本山建長寺から「東光禪寺再中興」の称号を授与された。

ど当時の重い機材を担いで、横浜川崎、横須賀は勿論、津久井の奥から箱根三崎まで全県下を駆けめぐり、渴いた人々の心に慈雨をもたらした法縁を結ばせた。行く先々の会場の寺の和尚が伝道隊のためにと苦心して用意された飲食物は当時のことで決して豊かではなかったが、老師は何時も上機嫌で飲むほどに十八番の唄と踊りが出て軽妙な話術にもはなが咲き一行の疲れは忽ち消えて、また次の会場へと情熱を燃やし続けていった。老師の居るところ内に烈々の気魄を秘めて春風駘蕩、惹きつけられる人であつた。

縦横に活動を続ける老師の存在は忽ち知られるところとなり、市仏連会長、県仏副会長、建長寺派重役、県私立幼稚園協理事長、国際仏教興隆協会事務総長、県宗教連盟理事長と広く足跡をのこし殊に印度ブツダガヤに日本仏教徒の拠点となる興隆協会の印度日本寺建設には数々の渡印、法嗣昌弘師の長期印度駐在の協力を得て心血を注ぎ、巖谷理事長とともに前後十年間に本堂、会館等主要建築物の建設を完了した功績は永く日本仏教徒の銘記するところなるであらう。

老師の宗教界に捧げられた努力は諸師のよく知るところである。数々の思い出はつきない。教界にとり前途多難の折、老師の如き実行の人を失うことはまことに痛惜に耐えない。日頃老師が提言せられた和の精神をもつて全一仏教運動を一層強力に推進したいものである。

思い出すまま省元師に

横山 敏明

前会長小沢省元師の遷化を知つたのは、市仏連会報の校正をしてる時だった。あれからも半歳の月日が去ろうとしている。

小沢師とは、小生が書記の一員として川崎大師で行なわれた会合に出るようになった昭和三十六七年のころだと思ふ。当時、師は国際仏教興隆協会の事務局長として多忙をきわめていたが、何度かは会合に出席され夜の席に同伴しその天衣無縫ぶりにいささかびつくりしたことを覚えている。のち師は県仏副会長となり、幣師が病いを得た四十五年、会長職を受けていただき、専務理事として二期つとめさせていたのだが昨日のことのようである。

当時の市仏連の仕事は毎月五日に県の慰霊堂に奉仕される各区仏教会の皆さんの世話と連絡だけであつた。

そのうち私も県仏の事務局をやり宗連の仲間となり、師とはますます深く親密になり、その「人間性にじかにふれることが出来たのは幸せであつた。」

ともあれ、若くして既に各界の要職を歴任し、功成り名遂げた横浜の名物禪師、従容として化を他界に遷し、大寂定中たま、呵々として独行する。まことに禅僧かくあるべしと讃嘆するものである。思い出せば無尽蔵で筆にすると無一物誠にたわいない追憶文で、師の冥福を祈りたい。

支部だより

保土ヶ谷・旭区 仏教会だより

当仏教会は十数年前に仏教奉讃會を結成、各寺総代世話人を中心に会員とした、行事として、春秋年二回の仏跡参拝バス旅行と、十二月八日の成道会を行っている。仏跡参拝は県内を中心に関東一円静岡、山梨各県に及び、日帰りコースであるが、もう六十ヶ寺ぐらいの名刹を参拝したことになる。今回はこの十一月七日の催を紹介しよう。

午前七時、区内各地点より出発バス六台約三百人の参加である。港北パークキングで集合、いよいよ練馬の長命寺(真言宗)へ……本堂にあり会長田島先生、奉讃会長内田さん、奉讃会理事長吉川先生の挨拶あり一同感銘、境内を散策して、いよいよ中食の場所、池袋のサンシャイン60に向う、もう少々アルコールの入った人も出て来て、車内はにぎやか、駐車場から全員二列縦隊になり、住職さんとバスガイドの引率で三階の食堂街まで誘導、自由行動二時間と云うことで、思い思いの仲間でお食に舌つづみ?、やがて60階の展望台に、中には二俣川が見えるかなと冗談を云いながら望遠鏡をのぞきこむ人もいてお登りさんよろしく嬉れしそ、みやげを買ったお茶を飲んだり楽しい時を過ごし、二番目の参拝地護国寺につき

大きな本堂だ、あるなあと云いながら、本堂にて寺の由来を拝聴、早四時半を廻ったので御帰還となり、夕暮れの高速道路を一路帰浜、各バス、それぞれ住職さんの挨拶に全員拍手。楽しい寺詣りの一日も合掌と、有難うございましての声と共に、暗くたった道を家路についた。

釈尊成道会催される

昨年十二月八日保土ヶ谷旭区仏教会、保土ヶ谷旭区仏教奉讃會主催により釈尊成道会が盛大に催された。会場は、横浜カントリーのすぐ下、今井町の高野山真言宗金剛寺さんである。寒い朝、午前十時すぎには善男善女が集り十一時には約二百名程の僧俗が一体となって法要がはじまった。

仏前にひびわれした手と手を合せ三礼し、仏教会長の敬白文、読経そして高野山真言宗東京別院主監老師の法話を拝聴、昼はお弁当に温い巻繊汁が用意され、一同身も心も温たまつた思いで山門をおりて帰路についた。

成道会敬白文

仰ぎ願くば三宝俯して照鑑を垂れたまえ。本日茲に大覺世尊八相成道の聖日を迎へ奉り、慎んで誦し奉る大乘妙法蓮華經を唱へ奉る梵音鳩日所の功德、南無大恩教主釈迦牟尼仏に向す。

今此の三界は皆是れ我が有なり其の中の衆生は悉く是れ我が子なり。而も今此の処は諸の患難多し唯我一人のみ能く救護を為す。大慈大悲常に懈倦無く、常に善事を求めて一切を利益す。

毎に自らは是の念を作す。何を以ってか衆生をして無上道に入り、速かに仏身を成就することを得せしめんと、大慈大悲ご報恩謝徳。尽余の功德を以ては保土ヶ谷旭区仏教会各聖、道念堅固信心不退、学徳増進、智慧明瞭、化導成弁ならしめ玉え。

別しては保土ヶ谷旭区仏教奉讃會々員一同、殊には本日参詣の檀信徒各々祈願し奉る家内円満、信力増進交通安全一切無障礙。願以此功德普及一切我等与衆生皆共成仏道。

維時昭和五十四年十一月八日
保土ヶ谷旭区仏教会長
田島海義敬白

岩本禪師本葬しめやかに

本会名誉会長乙川瑾映禪師(鶴見区曹洞宗大本山総持寺)は去る十月十日午後一時より前貫首岩本勝俊殿下の本葬を、大本山永平寺貫首禪師のもと盛大かつ厳肅に営弁された。

宗門あげての茶毘式で、さしもの大祖堂も参集の僧俗五千余名の熱気で初秋とはいえ、暑い位であった。本葬は、九仏事という最高の礼をもって前夜よりしめやかに執り行なわれた。当日は、一宗の要人を始め仏教界各界から管長、貫主が臨席し、その中広い活躍をしのび、遺徳をたたえた。

報告

寺院管理市有墓地問題

墓地専門委員長 佐藤寿広
先般横浜市衛生局長が交代したので、十一月二十七日志村会長、佐藤委員長同道市役所に吉村衛生局長(部長、担当課長同席)を訪問し、挨拶を兼ねてその後の経過

報告(横) 長あて文書をもって依頼した。これに対し当日は左記のように口頭で返事があつた。今までのいきさつはよく分りました。

1. 人手が足りないで思うように進展していかない事をご了承願っていた。
2. 問題が複雑且重大で簡単には処理できないが、二年間位で目途をつけるよう努力する。
3. この点について後日正式文書で回答する。
4. 以上のように返事があつたのであるべく早く処理してもらおうよう強く要望します。

右報告します。

柴田参与 宗連理事長に就任

神奈川県宗教連盟(金沢区東光禅寺内事務所)では八月三日理事會を開き小沢省元師の後任に仏教會から推薦されていた監事の柴田敏夫師の理事長昇格をきめた。師の任期は残任期間の明年三月三十一日までである。

柴田師は、宗連発足当時より、理事あるいは監事として宗連の発展、運営に参与して来ており、七月二十六日に開かれた県仏常務理事會において全会一致で推薦されていた。尚、後任の理事として丸山日雄師、監事に安藤総持師が推薦され同じく宗連理事會で承認された。

陽林寺本堂落慶する

去る十一月四日、港北区綱島台陽林寺では、このたび本堂客殿が新築され落慶晋山式が行われた。同寺は今まで尼寺として「観音さま」の愛称で親しまれてきたが現住東詰臣師の代から男僧の住職となり、法地となつてこのたび新しい一步をふみ出したのである。当日は稚児行列、梅花講も加つて晴れの日を祝い、住職及檀信徒の方々にとつて感慨無量の一日であつた。

謹賀新年

横浜市仏教会

名譽会長 乙川 瑾 英
参 与 柴 田 敏 夫
会 長 志 村 慎 吾
副会長 福 永 隆 昭
副会長 横 山 敏 明
会 計 森 山 正 城
専務理事 玄 野 孝 善
墓地専門委員長 佐 藤 壽 広
事務研究委員長 友 繁 禅 弘
監 事 赫 多 正 圓
監 事 鷹 巢 道 孝
他 役 員 一 同

ま」の愛称で親しまれてきたが現住東詰臣師の代から男僧の住職となり、法地となつてこのたび新しい一步をふみ出したのである。当日は稚児行列、梅花講も加つて晴れの日を祝い、住職及檀信徒の方々にとつて感慨無量の一日であつた。

新春を迎えて

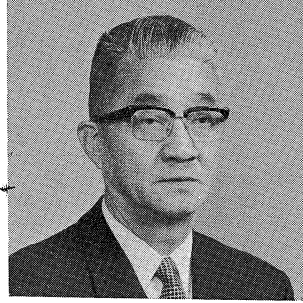
八十年代は最早選択の時代ではない

横浜市釈尊奉讃会長

宇野 忠 夫

皆様謹んで新年のご祝詞を申し上げます。年頭にあたり日頃のご尽力に対し厚く感謝申し上げ併せて各位の益々のご多祥をお祈りいたします。

さて私は昨年十月十三日中区西有寺さんで開かれた横浜市釈尊奉讃会創立総会に於て満場のご推挙により初代会長に就任いたしました。まことに光榮の至りです。もとより凡愚にして浅学非才の私です。この大任を果



写真は宇野忠夫氏

すため唯々誠心を籠めて勤めさせて頂きたいと存じます。何卒各位の絶大なご協力を賜りたく懇願いたす次第です。さて、昨年後半の我国では総選挙に続いて、権力者の椅子の取り合いを中心として色々なゴタゴタが続き、そうかと思えば、「ワイズマン会議」などと称する主として日米の経済問題をテーマとした知識人の意見交換といった会同もありましたが、こうしたことよりもむしろ国民の耳目は専ら次期政権争いの方に向けられていた始末であったようでした。その間に国外ではイランの首都テヘランで米大使館占拠、館員

人質という反米運動が起き、おまけに対外債務の棒引宣言まで行うという事柄にまで発展、これに続いてパキスタンでも米大使館襲撃と相次いで事件が発生、更にサウジアラビアではメッカの有名なカーバ聖殿占拠といった武装集団による行動が人質を取っての対決となり遂に治安軍の出動となった等、回教国は大変なことです。これら一連の事件が大事な石油問題で我国経済を

も大きく巻き込むような事態になれば重大なことになるでしょう。こうした甚だ穩かならざる風雲の中で世界は新しい年を迎えたのであります。

一方、アジアでは舟に乗って海洋を漂流する「ポルト・ピール」と呼ばれるベトナム難民が外国の港に辿り着いては救いを求めている事実がどうやら一応納まったかの感があるかと思うと、今やタイ国境には多数のカンボジア難民(四十万人とも言われる)が集結し、日夜、飢えと病に倒れる者続出という情報

すことは皆様ご承知の通りです。先般の現地調査団の報告に依りますと、地面に伏して「助けてくれ」と叫びをあげていたとのことです。何と惨ましい限りではありませんか。

横浜市という大国際港を持つ都市、其処には世界のさまざまな情勢の変化がいち早く反映し、その都度何らかの、時には必要なる人間的な市民活動までが要請されるのではないのでしょうか。

現在このような内外の雰囲気の中で、このたび全市の仏教会関係者を打って一丸とした市釈尊奉讃会が創立され、僧俗一体となってお釈迦さまのみ教えを戴いて、活発な実践活動を展開するという綱

釈尊奉讃会発足す

事務局長 瀧田 東 潤

昭和五十四年四月十九日第六回定期総会が中区大平町の西有寺に於て開催された時に各種案件が審議されたが市仏教会連合会長志村慎吾老師が永年念願されて主張さ

れた釈尊奉讃会がようやく軌道に

領のもとに、新春スタートすることになりましたことは寔に意を強うする次第で大いに慶賀に堪えません。

偶々私は若い頃多年に亘り南米ブラジル国に駐在し、在留邦人の世話に当り、戦前戦後を通じて海外移植民の仕事に携って参りました。今後、港都横浜市民として本市連合仏教会のご指導のもとに皆様と共に何かと働かせて頂けることに、この上ない欣びと同時に勇気を感ずるものであります。

斯くて、私共にとつては「八〇年代は最早選択の時代ではない」と観じつつ、終りに、皆様のご健勝を重ねて祈念して迎春のご挨拶といたします。

のり以来着々と準備を進めておりましたが初秋の十月十三日午前十時より西有寺に於て発会式が挙行された。時代は刻々と変化し我々仏教徒もただ寺門の護持ばかりでなく国際情勢にも眼をくぼり各派宗門が一致団結し協同歩調を取らなければならぬ時代である。團結こそ無言の強力な力となることは過去の歴史が雄弁に物語っている。

この奉讃会は僧俗一体となり仏法興隆を期するという大目標をかかげている。現在加入会員は各区仏教会長の格段の御尽力をいただきま

ません。各区寺院住職が率先加入を願ひ檀信徒の方に勧誘を更にお願ひしたい所である。尚奉讃会の進むべき方向について御意見を賜りたいと思います。出来る限り参考にいたしたいと存じます。

さて、発会式当日は西有寺法堂にて午前十時より来賓各位の参列のもとに志村会長導師となり本尊上供を務め約四十分で終了した。つづいて午前中檀信徒会館にて議案の審議に移った。開会の辞は市仏副会長副永隆昭師に始まり、志村会長の挨拶、議長団長に藤江邦介氏が選出され議事はスムーズに進んだ。奉讃会長には金沢区の宇野忠夫先生が選出された。挨拶に立った会長は諸師の後援により国際的視野に立つて活動を進めたいと力強い発言があった。つづいて事務局長には瀧田東潤師、会計の程木徳明師が承認された。

祝辞はかつての副知事五神辰雄氏、全日仏の安藤義祐老師、総持寺副寺金子重弘老師、県仏会長貝山宜泰老師、名古屋の三輪田氏などの祝辞をいただいた。

閉会の辞は市仏副会長横山敏明師よりいただき正午に一応終了した。昼食は各部屋に別れて取り午後一時より雑誌「酒」編集長佐々木久子先生の誠に有益な講演を拝聴して、すこぶる感銘を受けた。

演題は「ゼロでも花は咲きます」である。先生は宮大工の家庭に生れ両親の力強い躰をうけたとのことではなかなかの女丈夫と申される方であった。

横浜市釈尊奉讃会の 発会に当って

藤 江 馨 山

この度横浜市仏連の御後援により、全国にさがけて横浜釈尊奉讃会が設立されましたことを先ずお喜び申し上げます。そして創立総会席上において図らずも事務局次長の御指名を頂きました。申すまでもなく浅学非才その任に非ずとは存じますが御指名を頂いた以上何とか努力をし、任を全うしたいと考えております。

さてこれでは一応レールの上に乗ったわけですがいろいろの会にあり勝ちなただ会と会則を作っただけというのでは何もならないどころか、かえって害の方が多くなると思います。これからはどうして会を発展させ、そして永続させるかが最も大切な課題であります。創立総会の記念講演のような事業も今後必要と存じますが、この外仏教徒の団体でありますから当然のこととして何か「自ら行ずる」ものが必要なのではしようがそれはこれから会長はじめ会員各位と共に考えてまいりたいと念願しております。又私が常々感じていることを一言申し上げれば現代の日本人に何とかしてもう少し布教活動を通じ仏教を理解してほしいという事です。そしてこの念願を實踐にうつすために釈尊奉讃会ができたといっても過言ではないと思っております。どう

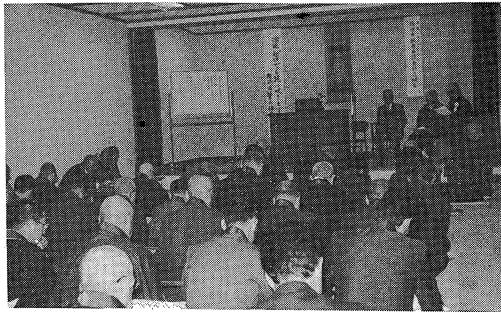
か今後共よろしく会長様はじめ役員及び会員の皆様方の御指導御鞭撻を賜りますようお願いいたします。簡単ですが御挨拶に代えさせていただきます。

皆さんへのおねがい

釈尊奉讃会会計 程木徳明

このたび奉讃会発足にあたって会計を命ぜられて、その責任の重大さとまどまっている次第です。どうぞ皆様のご指導をひとえにおねがい申し上げます。

さて発会式まではどの位の方々が会員になつていただけるかと心配していたのですが、皆様で三



写真は発会式の様

百人をこす盛況となり、入会金と五十四年度会費で一人二千円、それに当日までの有志の方のご芳志を合わせますと七十三万円をこえる額となりました。この中から入会者におくばりした輪げき代、会場費、弁当代等を引きまして現在残金が十八万円余となっております。何しる発会早々の奉讃会です。

記念講演

「ゼロでも

花は咲きます」

『酒編集長』佐々木久子女史

私は先生といわれるほど偉い人ではありません。近ごろの世の中は、先生が多くて世の中おかしいですが、私は歴とした職人です。北は北海道、南は九州あるいは世界各国飲んであるいたのでありますが、人々は違い、考え方が違い、色が違い、習慣が違いますが、ただ一つ共通したものがありません。

それは、人それぞれが幸せになりたいということです。幸せとは形がないですが、人々は形のあるものををつかんで幸せを求めております。そこで私は、酒の友社の雑誌を編集することによって幸せを形として求めてみました。

今はマスクミ等ということが盛んで、何でも手に手をぬいたものとして形のあるものを求めて幸せを願ひ、幸せは形によって求められるという時代になってしまいました。そこで多くの人々はすてき

ので、会の援助がなくては一人だちもむずかしい現状ですが一応借金の支払もおわって一安心しております。次の心配は昭和五十五年度の会費のあつめ方です。これからは各年度会費が最大の収入源ですからこの点は各ご寺院様の檀信徒奉讃会員の皆様からの会費あつめをよ

なマンションを買ってかっこよく暮らしたい。そればかりを望んでその中で暮らす我が子の幸せは忘れていっている人がほとんどでありまして。父親はどうあるべきか。母親はどうかあるべきかを深く知ることが何よりも大切であります。

私の生れは、宮大工であります。小さい時から、お前がこうして暮らしてゆけるのも、みんな職人さんのお陰なんだよ、職人さんを大切にし、お前の命を与え下さった御先祖さまを大切に、おまわりをしなさいと、育てられました。ですから私は、物欲よりも形として見えないものを大切にしようと思つてまいりました。

PTA等にまゐりますと近ごろの子供は親のいうことを聞かないとよくいいますが、お母さん方はどうでしょう。口先だけで立派な事を言つても実行は中々できないのです。例えば、内の子は食事の時「いただきます」を言わないといいますが、お母さんは「いただきます」をいいますか。とたずねると私はいいませんが……という。これでは子供が出来るわけがないでしょう。それは子は親を、

ろしくおねがい致します。さらに各区仏教会会長様もこれのとりまとめをしていただくことになりまして、御多忙のところお手数をおかけして申しわけありません。何しろ初めてのことですので、新会員加入ご勧誘も合せて、今後よろしく御指導御鞭撻下さいませようおねがい申し上げます。(港北区曹洞宗東照寺住職)

親は子を愛のきずなで結ばれているのがうすれているからだと思います。これは親子ばかりではありません。世の中お互いが信頼してないのが今日の現実社会です。日本は非常に気候に恵まれた所で、春には春のもの、夏には夏のもの……というように四季の食べものがあります。しかし今は合成のインスタント食が主で四季の味を味う事なんてまれになってしまいました。これでいいのでしょうか。今日の日本は愛情にうえています。自然も少なすぎます。ですから人々の心もゆがんでしまつていっているのです。それで他人を悪く言い自分を反省しない、それが今の世の中です。輪廻という言葉があります、自分から出たことは回り回って再び自分のところにもどって来るといふ事ですが、何も形がなくても、愛があり信頼があれば必ず幸せは巡ってまいります。「ゼロでも花は咲きます」。

形の有るものは使えば無くなりません。形の無いものは使つて無くなりません。仏さまを信じ人を信じ心を開いて暮らすこと、これが幸せの道だと私は思います。

頌 春

祈 高 堂 万 福

市 仏 連 参 与

港 北 区 仏 教 会 会 長

柴 田 敏 夫

港 北 区 菊 名 町 五 二 一
電 四 二 一 八 六 八 三

横 浜 市 仏 教 連 合 会 長
横 浜 市 釈 尊 奉 讚 会 顧 問

住 職 志 村 慎 吾

金 沢 区 瀬 戸 一 〇 一 二 二
金 龍 禅 院 住 職
〒 二 三 三 六 電 七 〇 一 八 八 二 三

横 浜 市 釈 尊 奉 讚 会 会 長

宇 野 忠 夫

金 沢 区 金 沢 町 一
電 七 〇 一 九 三 八 三

横 浜 市 釈 尊 奉 讚 会 事 務 局 長
曹 洞 宗 第 二 宗 務 所 副 所 長
東 林 寺 住 職

瀧 田 東 潤

港 北 区 篠 原 町 一 二 五 二
電 四 二 一 〇 三 三 二

臨 濟 宗 建 長 寺 派

福 聚 寺 住 職

森 山 正 城

保 土 ヶ 谷 区 岩 井 町 五 六
電 七 一 五 一 五 五 九 四

横 浜 市 仏 教 連 合 会 副 会 長
新 善 光 寺 住 職

福 永 隆 昭

南 区 三 春 台 一 三 三
〒 二 三 三 一 電 三 三 一 五 七 五 四

神 奈 川 県 仏 教 会 副 会 長
横 浜 市 仏 教 連 合 会 副 会 長
西 有 寺 住 職

横 山 敏 明

中 区 大 平 町 九 六
〒 二 三 三 一 電 六 六 一 〇 一 六 六

保 土 ヶ 谷 ・ 旭 区 仏 教 奉 讚 会 理 事 長

三 仏 寺 住 職

吉 川 哲 雄

旭 区 本 村 町 七 六
〒 二 四 一 電 三 九 一 一 三 〇 七

横 浜 市 仏 教 連 合 会 専 務 理 事

長 昌 寺 副 住 職

立 野 孝 善

旭 区 さ ち が 丘 五 九
電 三 九 一 一 三 七 九

<p>市仏連監事 円光寺住職 赫 多 正 圓</p> <p>鶴見区朝日町一―五六 電五〇一―六〇〇〇</p>	<p>南・港南区仏教会会長 弘誓院住職 安 藤 総 持</p> <p>南区陸町二―二二一 電七三一―二八二五</p>	<p>横浜市釈尊奉讃会会計 東照寺住職 程 木 徳 明</p> <p>港北区綱島西一の十三の十五 〒223 電 五三一―一七八三</p>	<p>金沢区仏教会会長 別格本山 称名寺住職 須 方 智 證</p> <p>金沢区金沢町二―二 〒236 電 七〇一―九五七三</p>
<p>保土ヶ谷旭区仏教会会長 日蓮宗々々会議員 大蓮寺住職 田 島 海 義</p> <p>保土ヶ谷区神戸町九八 TEL 331 0535</p>	<p>緑区仏教会会長 大蔵寺住職 佐 藤 秀 山</p> <p>緑区中山町六六六 電九三―三九九六</p>	<p>横浜市釈尊奉讃会会計 荻 正 義</p> <p>港北区綱島台一〇―一〇 〒223 電 五二―一二四八</p>	<p>磯子区仏教会 会長 川 野 清 吾 副会長 瀧 川 覚 道 会計 鬼 頭 誠 胤</p>
<p>西区仏教会会長 墓地専門委員会委員長 久成寺住職 佐 藤 壽 応</p> <p>西区平沼一―二〇―二六 電三二―一七六七六</p>	<p>神奈川区仏教会会長 遍照院住職 山 本 芳 昭</p> <p>神奈川区子安通三一―三八二 電 四四一―〇八二七</p>	<p>中区仏教会会長 大円寺住職 佐 藤 日 香</p> <p>中区 大平町九四 〒二三― 電六四―四九三三</p>	<p>横浜市釈尊奉讃会 事務局次長 藤 江 馨 山</p> <p>保土ヶ谷区岩井町三三三 〒240 電 七三一―一七九六</p>

横浜市積尊奉讃会会則

第一条 本会は横浜市積尊奉讃会という。

第二条 本会の事務所は理事会で定めた場所に置く。

第三条 本会は仏陀積尊を讃仰し、会員相互の連絡と親睦を図り、もって仏法興隆を期することを目的とする。

第四条 本会は前条の目的を達成するための事業を行う。

第五条 本会の主旨に賛同するものをもって会員とする。

第六条 本会に次の役職員を置く。役員の内任は総会の承認を得るものとする。

一、会長一名、理事会で選出し本会を代表し会議の議長と

54・6・19 本会顧問 小沢省元

師密葬 役員参列

54・7・4 故小沢省元師本葬

正副会長役員参列

54・8・3 積尊奉賛会設立準備

事務引継 於西有寺

54・8・5 県慰霊堂奉仕 港北

区仏教会

事 務

54・8・22 金沢区伝心寺故大沢

良浩師本葬役員参列

54・8・31 積尊奉賛会設立準備

於東林寺

54・9・10 常務理事会於西有寺

54・10・13 積尊奉賛会発会式並び文化講演の開催

於西有寺

二、副会長三名、理事会で選出し、会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

三、理事若干名、会員中より総会において選出し、会務の執行に当たる。

四、顧問若干名、理事会の推挙により、会長が委嘱し、会長の諮問に応じる。

五、事務局長一名、事務局次長二名、会員中より会長が指名し、職員を管掌し、通常の事務を処理する。

六、会計二名、会員中より会長が指名し、財務を担当する

七、監事三名、会員中より理事会において選出し、民法第五九条に掲げる職務を行う

54・10・21 緑区松岳院本堂落慶

式役員出席

54・11・5 県慰霊堂奉仕・金沢

区仏教会

54・11・18 慶式役員出席

市有墓地問題の陳情

54・11・21 及書類作成於長昌寺

日 誌

54・11・29 三役会及奉賛会と合同で会報編集西有寺

奉賛会と合同で会報の編集於西有寺

54・12・11 常務理事会及び積尊

奉賛会合同による忘年会の開催

54・12・11 常務理事会及び積尊

奉賛会合同による忘年会の開催

於西有寺

八、職員若干名、会長が委嘱し事務を処理する。

第七条 役員の内任は二年とし、再任を妨げない。

第八条 会議は総会と理事会とし、会長が召集する。

総会は年一回、理事会は随時開催し、議事は出席者の過半数をもって議決し、可否同数の時は議長が決するところによる。

第九条 本会の経費は会費、寄付金、及びその他の収入をもってし、その会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

第一〇条 本会会則の改廃は総会の決議による。

附則 本会則は昭和五十四年十月十三日より施行する。

網 領

私達は、僧・俗、力を合わせ、

積尊の教に帰依し、只今、この生活をささえて来て下さった

目には見えないが大いなる力に感謝して、よい人生をさつき、

世相の昏迷に一灯を点するものであります

奉讃会役員名簿

顧問 乙川 謹 英

副会長 志村 慎 吾

会長 宇野 忠 夫

副会長 吉川 哲 雄

事務局長 永堀 政 利

事務局長 滝田 東 潤

次長 藤江 磐 山

会計 木 徳 明

理 会 計 務 課 長 藤 野 正 義

理 事 長 横 山 敏 昭

理 事 長 森 山 正 城

理 事 長 玄 野 孝 善

理 事 長 中 田 隆 勲

理 事 長 山 本 芳 昭

理 事 長 佐 藤 泰 心

理 事 長 佐 藤 総 持

理 事 長 安 藤 海 義

理 事 長 川 野 清 吾

理 事 長 須 方 智 澄

理 事 長 柴 田 敏 夫

理 事 長 佐 藤 秀 山

理 事 長 永 原 文 雄

理 事 長 藤 村 宜 一

理 事 長 金子 正 浄

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

監 事 監 事 監 事

松岳院本堂落慶す

横浜線と田園都市線の交わる長津田駅からさらに一駅のところ

「こどもの国駅」がある。

ここは、日曜日には緑を求めて家族連れでにぎわうが、その途中の小高い所に「大峰山松岳院」がある。

ご本尊は、釈迦牟尼仏で、未寺が一ヶ寺ある。此の度、本堂、庫裏、が鉄筋コンクリートで再建され、階上が本堂、階下が客殿で

すばらしい建物である。

昨年、十月二十一日多数の僧侶が参列し盛大に落慶法要が催され緑区の面目を一新した。

永谷山長昌寺客殿落慶す

横浜駅から相鉄線の急行で一つ目に二俣川駅がある。ここは、い

ずみ野線の分岐駅であり、近くには自動車運転試験場等、県の行政機関が

その二俣川駅

から西へ十分程歩くと小高い所に「永谷山長昌寺」がある。歴史は古く、厚木の金剛寺未で柳瀬架禪師を開山に天正七年に創立された寺である。本堂庫裏は、昭和三十七年に落慶し、昨年十一月十八日に客殿が落慶した。建物は木造で和室三室他茶所トイレ等で五十坪ある。今後地域の発展にともない研修道場として大いに期待できるであろう。

県慰霊堂奉仕当番

毎年市仏連では県慰霊堂の奉仕活動を行っている。本年の当番は左の如くである。切りぬく等して記憶して必ず御随喜されたい。

55年2月5日 中区仏教会

55年4月5日 保土ヶ谷区仏教会

55年6月5日 鶴見区仏教会

55年8月5日 戸塚区仏教会

55年11月5日 瀬谷区仏教会

編 集 後 記

本年も盛沢山の記事をのせて発行する。一刻も早く会員の手に渡るよう努力されたい。

昨年積尊奉讃会が設立された事によって僧ばかりではなく俗の方にもこの会報が渡る。

中味も少々変わるであらう。積尊奉讃会では会員の増員を計っている。涅槃会の節は多くの会員をさそって有意義にしたい。

昨年は本会にとつて有望な諸師が遷化された。会員諸師の健康を祈念し御活躍と御協力を期待する。

県慰霊堂奉仕は、万難を排して御随喜願いたい。

玄野記